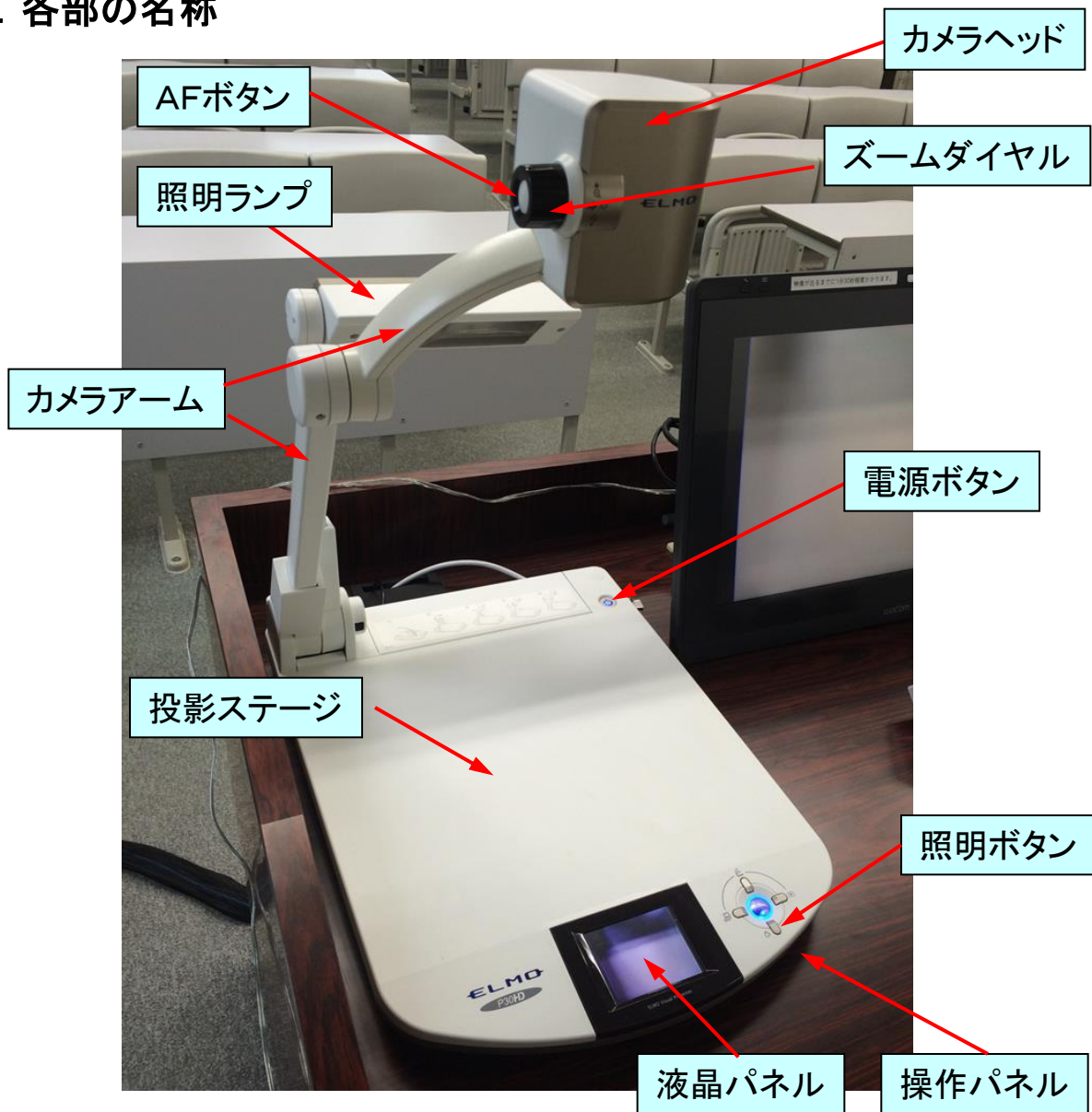


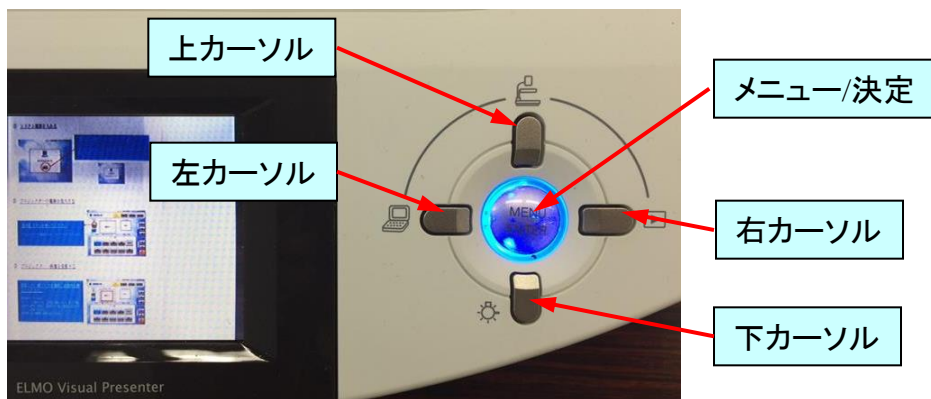
3. 書画カメラの操作

(ELMO P-30HD)

1. 各部の名称



【操作パネル】



2. 使用前の準備

(1) 折りたたまれた状態の場合は、カメラヘッドおよび照明ランプを使用状態の位置にする。

⚠ 通常は使用状態のままでよい。

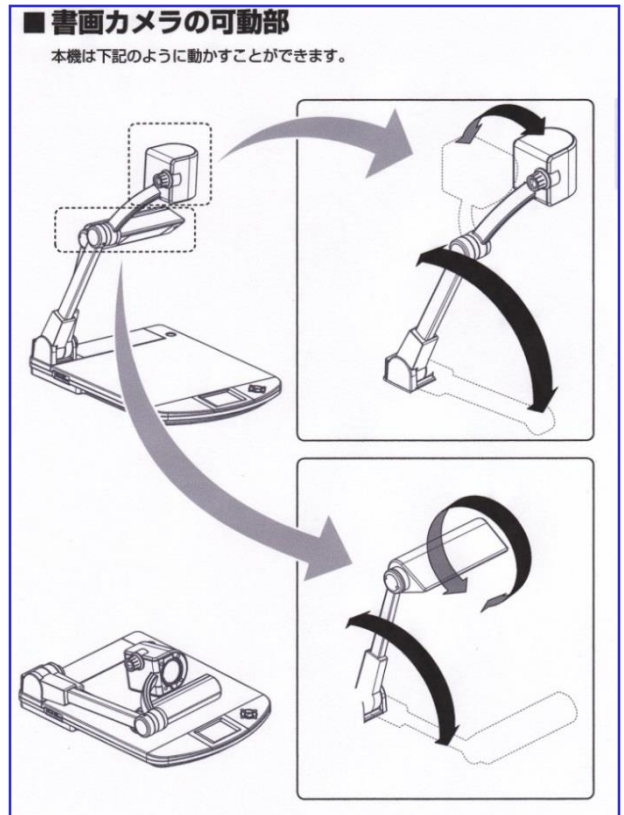
(2) 電源ボタンを押す。ランプが赤色から青色に変わる。

⚠ システム電源を入れただけでは、書画カメラの電源は入らない。

(3) 照明ボタンを押す。

⚠ 電源ボタンを押しただけでは、照明は点灯しない。

⚠ 部屋が明るい場合は、照明を点灯しなくても、投影することができる。この場合、照明を使用すると、明る過ぎて画面が見難くなることがある。



3. 資料の投影

(1) 資料を投影ステージ上に置き、画面を見ながらズームダイヤルで表示範囲を調整する。

⚠ 書画カメラの液晶パネルには、プロジェクター等に映し出される映像と同じものが映るので、こちらを見て調整してもよい。

⚠ 本機の構造上ズームを最小にしても、A4縦サイズの下原稿は、上下を全て画面に収めることはできない。

(2) 通常はオートフォーカスモードであり、ピントを合わせる必要はないが、合わない時は、AFモードを手動にしてAFボタンを押す。
手動にする手順は、4項参照。

⚠ AFモードを手動にするのは、立体物などでピントが合いにくい場合とし、使用後は必ず自動に戻しておく。

(3) 明るさの調整は、通常自動で行われるため不要であるが、画面が白くなる場合などは手動で調整する。手動で行う手順は、5項参照。

4. 手動でのピント調整

- (1) メニューボタンを押してメニューを画面を出し、カーソルでカメラ映像の操作→(決定)→AFモード→(決定)→手動の順に選択する。
(決定はメニューボタンを押す)

⚠ メニューを消すには戻るを選択する。

- (2) カメラヘッド側面にあるAFボタンを押す。

- (3) 書画カメラの使用が終了したら、AFモードを自動に戻しておく。

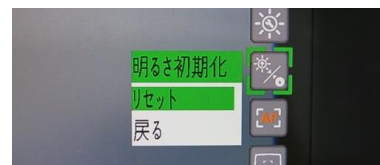
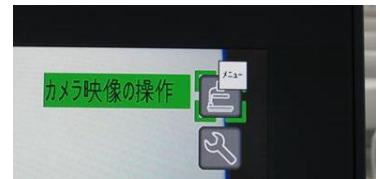


5. 手動での明るさ調整

- (1) メニューボタンを押してメニューを画面に出し、カーソルでカメラ映像の操作→(決定)→明るさ調整→(決定)の順に選択する。
(決定はメニューボタンを押す。)

- (2) 明るくまたは暗くを選択する。
(メニューボタンを押すごとに変化する。)

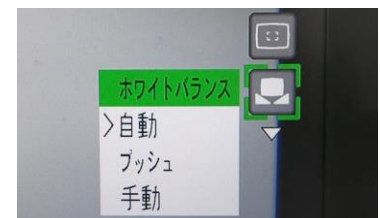
- (3) この状態は電源を切っても記憶されるので、使用後は必ずメニューで明るさ初期化→(決定)→リセット→(決定)の順に選択し、明るさを初期値に戻しておく。



6. 手動でのホワイトバランス調整

- (1) 通常ホワイトバランスは自動で調整されるため、手動操作は不要であるが、実物と投影映像の色が合わない場合や意識的に色を付ける場合などは、手動モードにして調整する。

- (2) メニューボタンを押してメニューを画面に出し、カーソルでカメラ映像の操作→(決定)→ホワイトバランス→(決定)の順に選択する。



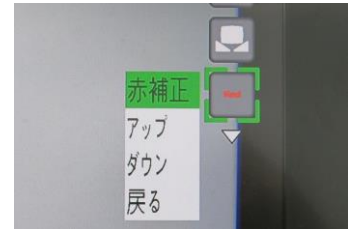
3. 書画カメラの操作

(ELMO P-30HD)

- (3) カーソルボタンで手動を選択し、下カーソルボタンを押すと、赤補正および青補正のメニューが出るので、どちらかを選択し決定ボタンを押す。

⚠ 最初赤補正のメニューが出て、カーソルで下げると青補正メニューが出る。以後は両方表示される。

- (4) カーソルでアップまたはダウンを選び、決定ボタンを押すごとに補正值を変えることができる。



- (5) 補正值および手動モードの状態は電源を切っても記憶されているため、使用後は必ずホワイトバランスを自動モードに戻しておく。

この操作は、ホワイトバランス→(決定)→自動→(決定)の順に行う。

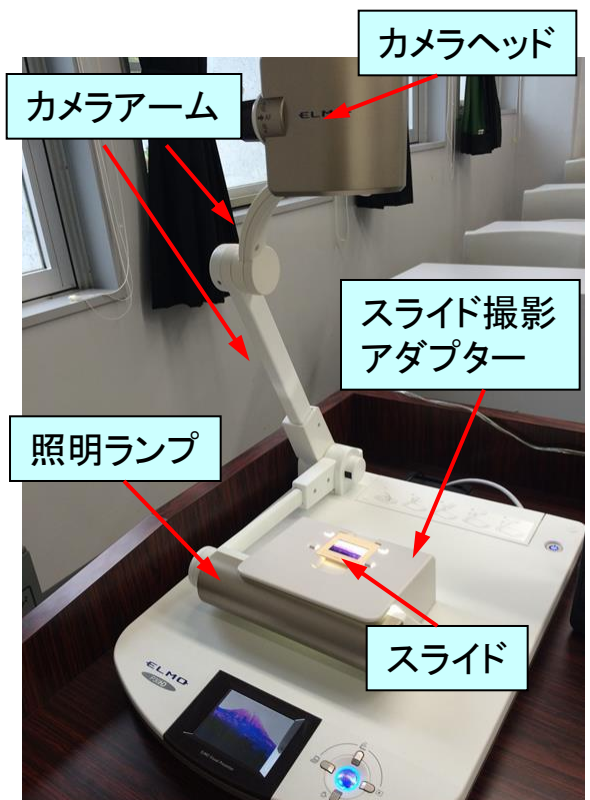


7. スライドフィルムの投影

- (1) 照明ランプのみ折りたたんだ状態とする。カメラヘッドの位置は伸ばした状態のままよい。

- (2) スライド撮影アダプターを照明ランプに被せるようにセットし(写真参照)、画面を見ながら、スライド撮影アダプターの開口部がカメラの真下にくるように、カメラアームを動かして位置を調整する。

- (3) スライド撮影アダプターにスライドをセットし、画面の大きさが合うようにズームダイヤルで調整する。



8. 終了操作

通常は、システムを終了させると連動して書画カメラの電源が切れるが、独自に電源を切る場合は、電源ボタンを2秒以上長押しする。

(電源ランプが青色から赤色に変わる)